

## Cardiovascular Imaging In-a-Month

### ● A 46-Year-Old Woman With Continuous Murmur in the Neck

岡田 尚之

吉岡佐知子

岡 俊明

Hisayuki OKADA, MD

Sachiko YOSHIOKA, MD

Toshiaki OKA, MD

症 例 46歳, 女性

主 訴: 頸部雑音

現病歴: 1997年3月, 検診で心雑音(?)を指摘された。当院を受診したところ右頸部に連続性雑音が聴取されたが放置していた。約1年後の1998年6月9日に精査入院となった。

入院時現症: 血圧120/50mmHg, 左右差なし。脈拍88/min, 右頸部に連続性雑音を聴取した。その他異常なし。右鎖骨上窩から上大静脈付近を観察したカラードップラーエコー図をFig. 1に示す。

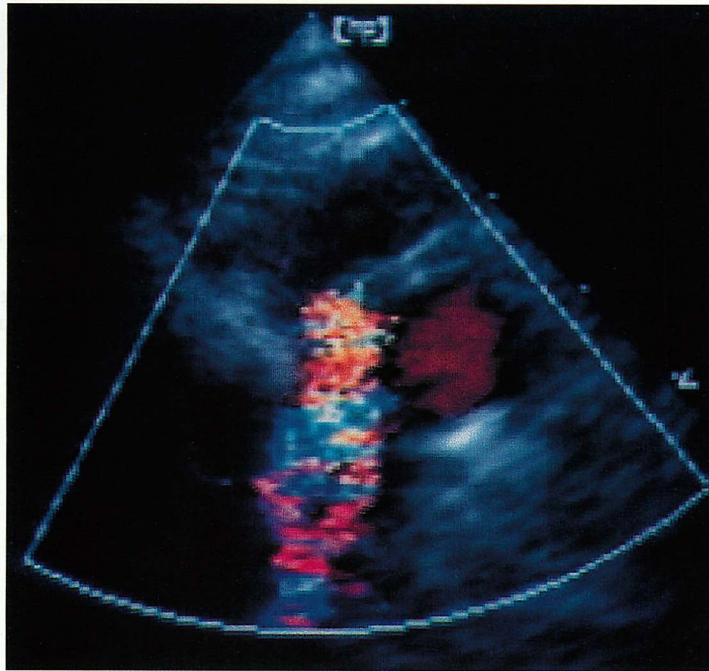


Fig. 1

聖隷浜松総合病院 循環器科: 〒430-8558 静岡県浜松市住吉2-12-12

Department of Cardiology, Seirei Hamamatsu General Hospital, Shizuoka

Address for reprints: OKADA H, MD, Department of Cardiology, Seirei Hamamatsu General Hospital, Sumiyoshi 2-12-12, Hamamatsu, Shizuoka 430-8558

Manuscript received November 2, 1998; accepted November 20, 1998

## 診断のポイント

カラードップラーエコー図(Fig. 1)は血管の位置関係がはっきりしないが、動脈から静脈系にシャント血流が認められた。右鎖骨下動脈からの血管造影像(Fig. 2)では右鎖骨下動脈から上大静脈へ造影剤の漏出が認められた。酸素飽和度を測定すると右鎖骨下静脈は72.1%、上部上大静脈92.6%、下部上大静脈は92.1%であった。これらの所見から、右鎖骨下動脈-上大静脈瘻と診断した。現在、右心不全症状がないため、定期的に外来で追跡する予定である。

動静脈瘻は先天性、後天性のものに分けられる。後天性のものには外傷、感染、腫瘍がある。本症例ではこれらに当てはまるものはなく否定された。先天性のものは、胎生期初期に動脈と静脈の吻合が残り、拡張して動静脈瘻になると考えられている。鎖骨下動脈-無名静脈-上大静脈瘻の報告<sup>1)</sup>はあるが、右鎖骨下動脈-上大静脈瘻に関しては30年以内の報告はなく、貴重な症例と考えられる。

**Diagnosis:** Right subclavian artery-superior vena cava fistula

## 文献

- 1) Sapire DW, Lobe TE, Swischuk LE, Casta A, Schwartz MZ, Droge M: Subclavian-artery-to-innominate-vein fistula presenting with congestive failure in a newborn infant. *Pediatr Cardiol* 1983; 4: 155-157



Fig. 2

**Fig. 1** Color Doppler echocardiogram obtained from the suprasubclavian fossa

**Fig. 2** Arteriogram showing right subclavian artery-superior vena cava fistula